

2024年夏号

元気おとよ新聞

令和6年7月1日発行 NO.46



春の御殿まつり

本格的な抹茶（表千家 湯村維知子さん）と宿毛市のアマチュアバンドによる生演奏を聴きながらの、春の御殿まつりが開催されました。

5月18日に大豊町立川下名に建つ国の重要文化財、旧立川番所書院（地元では御殿と呼ぶ）で、大阪府豊中市で茶道を教えている湯村維知子さんが、たてた抹茶や地元大田口カフェさんが作った碁石茶ロールケーキが来客者に振舞われ、宿毛の音楽家による生演奏を楽しむ「春の御殿まつり」が初めて開催されました。

当日は、新緑がまぶしい暖かな春の日差しの下、町内外から約60の方が訪れました。来客者の顔ぶれには、以前立川に住んでいた方が目立ちました。来年も、このようなイベントを計画してほしいとの感想を頂きました。

旧立川番所書院ではこれまで、立川御殿音楽祭をはじめ、打楽器などの演奏会が定期的に開かれてきました。春に

こうしたイベントを開催したのは初めてで、今回は、高知市出身で立川地区に古民家を所有するマリンバ奏者、市川みどりさんに応援に駆けつけさせていただきました。また、高知県立大学（チーム名：大豊探検隊）の学生さん達も、抹茶作りや来客者への接待のサポートで「春の御殿まつり」を盛り上げて下さいました。

集落活動センター「そばの里 立川」として春のイベントを企画するのは初めての事だったので、企画段階から四苦八苦状態でしたが地元関係者や役場の方、県立大学の学生さん達のサポートで無事終えることができほっとしています。関係者の皆様に感謝です。ありがとうございました。

立川地区活性化推進委員会

集落活動センター「そばの里 立川」会長
吉川定雄



空き家を考える

連載企画

第5回 空き家マッチングツアー

今回は、「空き家マッチングツアー」についてお話をします。

大豊町と元気おとよは、令和4年度より2年間、高知県の「空き家対策モデル事業」を受託してきました。この事業でアドバイザーになって頂いたのが、福井県美浜町で空き家とそこに住みたい人をマッチングする団体「NPO法人ふるさと福井サポートセンター」（以下、ふるサポ）です。今回は、そんな空き家対策の先駆け団体・ふるサポが2月25日に開催した「空き家マッチングツアー」の参加記をお届けします。

空き家マッチングツアーとは？

空き家マッチングツアーとは、空き家を売買や賃貸したい方たちの情報をふるさぽが集め、空き家を探している方を募って、空き家を観て回るツアーを企画し、気に入った物件があれば交渉が始まるといったように、自身の家を手放したい人と家を手に入れたい人との繋ぐイベントのことです。ふるさぽは10年以上にわたりこの活動を続けており、その実績が評価され国のモデル事業として採択されるなどの活躍をされています。

当日の様子は？

当日は美浜町の駅に集合し、そのままバスで現地を周る行程でした。この日は6件の物件を周りました。参加者は25名で美浜町内や福井県内からの参加者が多く、県外からの参加者は3名ほど。以外にも町内の参加者が多かったことに驚きました。

特定非営利活動法人 元気おとよ

元気おとよは、大豊を元気にする民間団体です。

移住促進／地域交流／集落維持などに取り組んでいます。

お問い合わせ
080-8635-2253

〒789-0250
大豊町黒石 大田口テラス1階
<http://www.genki-otoyo.org/>

ふるさぽではメンバー以外に物件情報や所有者との交渉事をお世話してくれるキーマンを大切にしており、町内の各地域でそのように積極的に関わってくれる人たちと協力してこのイベントを開催しているそうです。現在では年間3回のマッチングツアーを行っており、定期的な開催をすることで円滑に空き家が巡っている状態をつくりだしているようでした。

実際に見て周った6件の物件ですが、中心地にある大きな古民家や、山側にあるコンパクトな物件など、それぞれ年代や立地条件など様々、参加者は配られた物件情報の資料を基に現地で真剣に空き家を品定めしていました。

イベントは空き家を周るというシンプルなものですが、当日



移住者紹介 岡山県出身 まつもと やすあき 松本泰章さん

今回の移住者紹介は岡山県出身の松本泰章（やすあき）さん。大豊町へ1年ほど前に移住し、住んでみた感想をインタビューしました！

まず、大豊町へ来たきっかけを教えてください！

元々高知県内に一度移住し、大豊町に住んでいます。大豊町へはじめて来た時、吉野川のすばらしさと自然の豊富さに感動し、ここに住みたいと思うようになりました。その中で大家さんとご縁があり、家も見つかり引越しました。

現在は大豊町で何をされているのですか？

お茶づくりをして、畑作業もしています。元々、お茶に興味があり、移住して碁石茶がある事を知り、昨年は実際にお茶づくりに挑戦してみました。お茶づくりの時期以外には、地域の方のゆず畑を整備したり、収穫などの仕事をして自然とともに生活しています！

大豊町へ移住してみて感想はどうですか？

大豊町に住んでみて、一番良かったと思っていることは自然が豊かなことですね。特に水がおいしくて、そのお水を利用したお風呂が毎日の楽しみとなっています。また、大家さんが、野菜や珍しい山菜などを持ってきててくれたりしています。今まで見たことがない山菜の調理方法など調べたりするのも楽しくて、移住して良かったと思っています。歴史が好きなので坂本龍馬をはじめ、住んでいる近くの歴史を調べたりすることも楽しいです。

移住して、何か始めたことはありますか？

まず、地域の消防団に入ったことです。消防団とかは入りづらいものだと思っていたが、入ってみると快く受け入れてくれてとてもうれしいです。それ以外には、地域の方に詩吟を教えてもらっています。地域の永済神楽に参加したこととても新鮮でした。神楽では8歳から101歳の地域の方が参加して、

のルートや物件情報の整理、家主さんとの連絡調整など事前準備をしっかりとしていることが伺えました。

私が面白いなと感じたのは、物件情報の他に「空き家見学の7つのポイント」と書かれた1枚、家の傾きや雨漏りなどをちゃんと確認するなど基本的なことの他に、「ピンとくるか」「玄関でお邪魔します ありがとうの気持ち、大切に扱う」「生活の工夫を見つける 次につなげる 魅力発見」といったように感覚的なところ、家主さんへの配慮の気持ちなどを大切にされていることがこの1枚に出ていて素敵だと感じました。

家を繋いで、地域を守る

ふるさぽでは管理が行き届かなくなり利活用ができない空き家が増えていく現状を変えたいと活動しており、このツアーだけではなく、空き家について学校の子供たちにも考えてもらえるよう、教導マニュアルや空き家の管理代行サービスの手引きを作成するなど、様々な方面からの取り組みを行っています。

このツアーに参加して感じたことは、家は守るものという考え方から、家を繋ぎ地域を守るという考え方へと変化している。そう感じるツアーでした。

実は、この視察を参考に、大豊町でも空き家マッチングツアーを開催することになりました。この機会に空き家を処分・活用したい方、空き家を探している方、是非ご連絡をください。話を聞くだけでも大歓迎です。よろしくお願いします！



伝統ってすごいなあと感じました。移住をして、趣味が増えるとは思っていなかったので、ちょっとびっくりしています。

移住して大変だったことはありますか？

実際、大豊町へ移住して、あまり大変ではありませんでした。特に地域の方が優しくしてくださり、とても楽しく暮らしています。強いて言えば、家が国道沿いで車の音が少し気になることですかね笑。

今後、大豊町でやりたいこととかありますか？

現在行っている詩吟をもっとやってみたいと思っています。後、地域の方とこれからも関わりをもって生活したいです。現在、行っているお茶づくりも2年目という事で、もっとしたいのです！あと、家の近くの畑を借りられるとうれしいなあと思っています。また、碁石茶を知り発酵食にも興味が出てきたので、発酵の勉強もしてみたいです。

以上、新しく移住した松本泰章さんでした。インタビューを聞いていても、大豊町へ移住し、毎日の生活が充実していて何よりです。よく「一期一会」と言いますが、地域の方との出会いがあり、楽しく暮らしているのだなあとインタビュー中の笑顔からも感じられました。

今後、お茶の栽培などいろいろと挑戦をしていってほしいと思います。ぜひ、空いている茶畠などを使ってほしいという方は、元気おおとよまでご連絡いただけたら幸いです。